

科目名 (Eng)		校外実習 (Extramural Practice)							
担当教員		山ノ内 正司							
対象学年等	学科・専攻	学年	授業期間	区分	単位数	時間数	分野	形態	学修単位科目
	建設環境工学科	4	集中	必修	1		専門	C	
目標基準との対応	福島高専の教育目標との対応：(D-4)、(F-1)、(F-3)。								
	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：4)、6)。								
	JABEE基準1(1)との対応：(d)-(2)-c)、(f)。								
授業の概要と方針		社会における技術者の役割を認識するとともに、学校で修得した知識が、実社会でどのように活用されているかを理解することにより、今後の学習に役立てる。							
到達目標		①技術者としての心構えを体得する。 ②学校での学習内容やこれから身につけるべきことを、企業の業務内容を参考に確認する。							
授業計画									
	週	授業項目	理解すべき内容					事前学習	
前期	1	(実習受入先の決定)							
	2	①実習先の希望調査							
	3	②実習先との調整							
	4	③実習先の学科内調整							
	5	④実習先の決定							
	6								
	7	平成22年度の主な実習先は以下のとおり。							
	8								
	9	国土交通省磐城国道事務所、国土交通省郡山国道事務所、港湾空港技術研究所、福島県いわき建設事務所、福島県いわき農林事務所、福島県環境センター、いわき市都市建設部、いわき市生活環境部、いわき市水道局、いわき市環境監視センター、東京電力、NEXCO東日本いわき管理事務所、NEXCO東日本水更津工事事務所、JR東日本、本宮市役所、新日本製鐵、清水建設、長大、堀江工業、東コンサルタント、東日本測量、日栄地質測量設計、フタバコンサルタント、北関東空調工業、富士通、三菱地所藤和コミュニティ、長岡技術科学大学など							
	10								
	11								
	12								
	13								
	14								
	15								
後期	16	(実習の期間)							
	17	・原則として第4学年の夏季休業中に実施する。ただし、やむを得ない事情により夏季休業中に行えない場合は、他の休業中に実施することができる。							
	18	・原則として、実習の期間は2週間とする。							
	19								
	20								
	21	(実習の実施)							
	22	・実習先のカリキュラムに従い、管理業務補助、測量、調査、計画、積算、設計などを体験する。							
	23								
	24	(成果の報告)							
	25	①実習の成果は本校所定の様式に従い、「校外実習報告書」としてまとめる。							
	26	②夏季休業明けに、学科で行う報告会において実習内容と成果を報告する。							
	27								
	28								
	29								
	30								
試験について		定期試験を実施しない。							
評価方法		企業からの報告書と実習報告会での発表内容を総合的に判断して評価する。							
教科書									
参考書									
関連科目		施工法、建設経営学							
履修上の注意		無遅刻、無欠勤など社会人としての最低限のマナーを遵守するとともに、計画したカリキュラムを遂行する。							